



Hinemos クラウド管理オプション Ver2.0 Standard for Azure

クイックスタートガイド 第1版

目次

1	はじめに	3
1.1	前提条件	3
1.2	クイックスタートで作るシステム構成	3
1.3	用語について	3
1.4	注意事項	4
1.5	免責事項	4
2	Microsoft Azure側の準備	4
2.1	ストレージアカウントの作成	4
2.2	クラウドサービスの作成	5
2.3	仮想マシン（マネージャ）の作成	5
3	Hinemosのセットアップ	6
3.1	Hinemosマネージャのセットアップ	6
3.2	サブスクリプションへの証明書のアップロード	8
3.3	クライアントのセットアップ	9
3.4	HinemosマネージャへのAzureのサブスクリプション情報の登録	10
4	Hinemosからクラウドの状態を見る	13
5	Hinemosからのクラウド操作	15
6	Hinemosマネージャを居室環境にセットアップする場合	15
7	変更履歴	16

1 はじめに

本書は **Hinemosクラウド管理オプション クイックスタートガイド** です。Hinemosクラウド管理オプションを利用するまでのセットアップの流れ、および基本的な機能を実際に使用して、Hinemosでクラウド環境を管理する簡単な例を体験することができます。

1.1 前提条件

本クイックスタートガイドでは、

Microsoft Azureについて基本的な知識を有していることを前提としています。Microsoft Azure 上に Hinemosの環境を構築するにあたって最低限必要な範囲を除き、Microsoft Azure の操作・用語に関する詳細な説明は記載していません。

また、**Microsoft Azureのアカウントを既に取得済みで、**

Microsoft Azureポータル (Web) を使用できる環境を持つことを前提とします。このMicrosoft Azureアカウントの中で使用するサブスクリプションを1つ決定してください。

本クイックスタートガイドでは、**Hinemosクライアントをインターネットに**

接続可能なオンプレミス環境に インストールします。Windows 7、Windows 2003、Windows 2008 などの オペレーティングシステムがインストールされたマシンを必要とします。

1.2 クイックスタートで作るシステム構成

本クイックスタートガイドでは、次のような環境を構築します。

- Hinemosマネージャ
 - Microsoft Azureの日本(東)リージョンに“hinemos(仮)”クラウドサービス上に構築
 - Oracle Linux 6.4の仮想マシンを作成し、“hinemos(仮)”クラウドサービスの外部から ssh、Hinemosクライアント接続 (tcp:8080)のアクセス可能にするエンドポイントの設定を行う
 - Hinemos4.1.2マネージャ、クラウド管理オプションfor Azure 2.0.4をインストール
- Hinemosクライアント
 - オンプレミス環境(居室PC)にインストール
 - HTTP通信でHinemosマネージャと通信
- 管理対象ノード
 - Hinemosマネージャと同じ“hinemos(仮)”クラウドサービス上に構築

本クイックスタートガイドでは、Microsoft Azure上に次のようなアイテムを作成します。

分類	名称	説明
ストレージアカウント	hinemosstorage(仮)	仮想マシン配置に必要な(Azure環境でユニーク)
クラウドサービス	hinemos(仮)	日本(東)リージョンに作成(Azure環境でユニーク)
仮想マシン	manager01	Oracle Linux 6.4 x64(ギャラリーより選択)
仮想マシン	agent01	Oracle Linux 6.4 x64(ギャラリーより選択)

また、このアイテムを作成するサブスクリプションに対して、外部からAPIアクセスを可能にするための証明書を登録します。

1.3 用語について

クラウド管理オプションと、各クラウドサービスとの対応する用語について、次の表にまとめます。

Hinemos用語	AWS	Cloudn	Azure
アカウントリソース	アカウント	アカウント	サブスクリプション
リージョン	リージョン	リージョン	リージョン
ゾーン	アベイラビリティゾーン	ゾーン	クラウドサービス
インスタンス	EC2インスタンス	仮想サーバ	仮想マシン
ストレージ	EBS	ストレージ	ディスク(Vhd)
インスタンスバックアップ	AMI	テンプレート	イメージ+ディスク(Vhd)
ストレージバックアップ	Snapshot	スナップショット	ディスク(Vhd)

本用語の対応表は、各クラウドサービスとHinemos用語を紐づけたものであり、各クラウドサービスにて同一の意味を持つものではないことに注意してください。

1.4 注意事項

- 本クイックスタートガイドで構築する環境は、クラウド管理オプションの環境を簡易に構築・試すことを目的としているため、セキュリティ等は一切考慮していません。
- 本クイックスタートガイドの内容を実施すると、Microsoft Azureにおいて料金が発生する場合があります。Microsoft Azureの料金体系等を理解した上で操作を実施してください。
- 本クイックスタートガイドにおいて、2014年8月10日現在のMicrosoft Azureポータルでの操作方法を記載していますが、Microsoft Azureのサービス変更に伴い、これらの操作が変更される可能性があります。また、アカウントによって、Microsoft Azureの画面上に表示される内容や、操作方法が異なる場合があります。

1.5 免責事項

本ソフトウェアの使用・本ドキュメントに従った操作により生じたいかなる損害に対しても、弊社は一切の責任を負いません。

2 Microsoft Azure側の準備

本章の操作は、全てMicrosoft Azureポータルから実施します。Microsoft Azureのアカウントが無い場合、事前に作成してください。また、このMicrosoft Azureアカウントの中で使用するサブスクリプションを1つ決定してください。

2.1 ストレージアカウントの作成

仮想マシンを作成する際に必要なストレージアカウントを作成します。仮想マシン作成時にストレージアカウントを自動生成すると、自動的にIDが付与されます。識別しやすいようにユーザ指定のIDの使用するため、事前にストレージアカウントを作成することを推奨します。既にストレージアカウントがあり、これを利用する場合は、特に作成する必要がありません。

- 「ストレージ」サービスの画面を選択します。

Microsoft Azureポータルにログインし、左側のメニュー「ストレージ」を選択します。

- ストレージアカウントの情報を入力します。

右側の画面に表示される「ストレージアカウントを作成する」をクリックし、画面下のテキストボックスに以下を入力します。URLは重複がない値を設定してください。

項目	入力/選択項目
URL	hinemosstorage(仮)
場所/アフィニティグループ	日本(東)
レプリケーション	ジオ(主要地域)冗長

3. ストレージアカウントを作成します。

最後に、画面下の「ストレージアカウントの作成」をクリックすると、ストレージアカウントが作成されます。

2.2 クラウドサービスの作成

Hinemosマネージャインストールする仮想マシンを配置するクラウドサービスを作成します。既にクラウドサービスがあり、これを利用する場合は、特に作成する必要がありません。

1. 「クラウドサービス」の画面を選択します。

Microsoft Azureポータルにログインし、左側のメニュー「クラウドサービス」を選択します。

2. クラウドサービスの情報を入力します。

右側の画面に表示される「クラウドサービスを作成する」をクリックし、画面下のテキストボックスに以下を入力します。URLは重複がない値を設定してください。

項目	入力/選択項目
URL	hinemos(仮)
リージョンまたはアフィニティグループ	日本(東)

3. クラウドサービスを作成します。

最後に、画面下の「クラウドサービスの作成」をクリックすると、クラウドサービスが作成されます。

2.3 仮想マシン（マネージャ）の作成

Hinemosマネージャを動作させる仮想マシンを作成します。先程作成したストレージアカウントhinemosstorage、クラウドサービスhinemosを指定するため、ギャラリーから作成します。Microsoft AzureのギャラリーにあるLinuxの中で、本書で使用するHinemosインストールパッケージのHinemosマネージャが動作可能なものは、OpenLogic CentOS、Oracle Linux(2014.8.10)です。

1. 「仮想マシン」の画面を選択します。

Microsoft Azureポータルにログインし、左側のメニュー「仮想マシン」を選択します。

2. 「仮想マシン」を「ギャラリー」から作成を解します。

右側の画面に表示される「仮想マシンを作成する」をクリックし、画面下の「ギャラリーから」をクリックします。

3. 作成する仮想マシンのOSを選択します。

「イメージの選択」画面が表示されるので、左側メニューから「ORACLE」を選択し、そのなかの「Oracle Lunux 6.4.0.0」を選択し、右下の「⇒」をクリックして次に行きます。

4. 仮想マシンの情報を入力します（仮想マシンの構成1）。

「仮想マシンの構成」画面が表示されるので、次の項目を入力し、右下の「⇒」をクリックして次に行きます。今回、Oracle Linuxへはパスワードのみでsshログインできるように、「認証」では「パスワードの設定」のみをクリックするようにします。

項目	入力/選択項目
仮想マシン名	Manager01
階層	標準
サイズ	A1(1コア、1.75GBメモリ)
新しいユーザ名	azureuser
SSH キーのアップロード	チェックを外す
パスワードの指定	チェックを入れる
パスワード	azureuserのパスワードを入力する

5. 仮想マシンの情報を入力します（仮想マシンの構成2）。

次の「仮想マシンの構成」画面が表示されるので、次の項目を入力し、右下の「⇒」をクリックして次に行きます。リモートの環境からssh及びHTTP(Hinemosクライアント)から接続できるように、エンドポイントの設定を忘れずに行いましょう。（作成後も変更可能です。）

項目	入力/選択項目
クラウドサービス	hinemosを選択
リージョン/アフィニティグループ	日本(東)
ストレージアカウント	Hinemosstorage
可用性セット	(なし)

クラウドサービスhinemosのパブリックポートから、今回作成する仮想マシンmanager01のプライベートポートへのポートフォワードの設定を、エンドポイントに設定します。

名前	プロトコル	パブリックポート	プライベートポート
SSH	TCP	自動	22
HTTP	TCP	自動	8080

6. 仮想マシンの情報を入力します（仮想マシンの構成3）。

次の「仮想マシンの構成」画面が表示されるので、特に何もせず、右下のチェックボタンをクリックして仮想マシンの作成を開始します。

7. 作成した 仮想マシンを確認します。

仮想マシンが作成すると、仮想マシンの一覧に表示されます。

8. 作成した 仮想マシンの詳細を確認します。

仮想マシンの一覧の中の「manager01」をクリックすると、詳細画面へ遷移します。

9. 作成した 仮想マシンへの接続情報を確認します。

画面上の「ダッシュボード」を押下すると、「manager01」へログインするためのIPアドレスとsshのポート番号が表示されます。

10. 作成した 仮想マシンへのエンドポイント情報を確認します。

画面上の「エンドポイント」をクリックすると、クラウドサービスhinemosのパブリックIPのポートと、仮想マシン「manager01」のプライベートポートの対応が表示されます。

3 Hinemosのセットアップ

仮想マシン（マネージャ）の作成 で用意した仮想サーバに対して、Hinemosマネージャとクラウド管理オプションのマネージャモジュールをインストールします。

3.1 Hinemosマネージャのセットアップ

1. 仮想マシンにログインします。

SSHターミナルソフトを用意し、仮想マシンのダッシュボードに表示される「パブリック仮想IP(VIP)アドレス」とポートに対してSSHで接続します。ログインユーザは「azureuser」、ログインパスワードは仮想マシン(マネージャ)の作成で入力したパスワードです。

ログイン後、rootユーザのパスワードを設定します。パスワードの設定後、rootログインします。

```
$ sudo passwd root

We trust you have received the usual lecture from the local System
Administrator. It usually boils down to these three things:

#1) Respect the privacy of others.
#2) Think before you type.
#3) With great power comes great responsibility.

[sudo] password for azureuser:←azureuserのパスワードを入力
Changing password for user root.
New password:←rootパスワードを入力
Retype new password:←rootパスワードを入力
passwd: all authentication tokens updated successfully.
```

```
$ su -
Password:
```

2. iptablesを無効化します。

chkconfigコマンドを使ってiptablesのサービス起動を無効化します。

```
# chkconfig iptables off
```

3. SELinuxを無効化します。

HinemosマネージャはSELinuxを無効化している必要があります。以下のコマンドを実行し、SELinuxの設定を無効化、再起動を行ってください。

```
# echo "SELINUX=disabled" > /etc/selinux/config
# reboot
```

SSH接続が切断されますので、再起動完了後、再度SSHターミナルソフトから接続してください。

4. ソフトウェアをアップロードします。

SourceForge.JPのHinemosプロジェクトページから、Hinemosマネージャとクラウド管理オプション for Azureの以下のパッケージをダウンロードしてください。WinSCPなどのツールを使って、以下の2パッケージを仮想マシンmanager01の/tmp配下に配置します。

```
-CloudManagerStandardAzure_v2.0.4.tar.gz
-hinemos_manager-4.1.2_rhel6_64.tar.gz
```

5. Java7をインストールします。

Hinemosマネージャver 4.1ではJava7を必要とするため、Java7をインストールします。以下のコマンドを実行し、Java7をインストールします。

```
# yum list
# yum install java-1.7.0-openjdk.x86_64
# yum install java-1.7.0-openjdk-devel.x86_64
```

6. Hinemosマネージャをインストールします。

以下のコマンドでマネージャのインストーラを起動します。

```
# tar zxvf hinemos_manager-4.1.2_rhel6_64.tar.gz
# cd Hinemos_Manager-4.1.2_rhel6_64/
# ./manager_installer_JP.sh
```

インストーラでは何度か質問されますが、全てEnterを押してください。

また、仮想サーバ起動時に自動的にHinemosマネージャが起動するように設定を行います。

```
# cp -p /opt/hinemos/sbin/service/hinemos_manager /etc/init.d/
# chkconfig --add hinemos_manager
```

7. Hinemosクラウド管理オプションをインストールします。

クラウド管理オプションのインストールには2つのインストーラを実行します。以下のコマンドで1つ目のインストーラを起動します。

```
# /opt/hinemos/bin/pg_start.sh
# cd /tmp
# tar zxvf CloudManagerStandardAzure_v2.0.4.tar.gz
# cd CloudManagerStandardAzure_v2.0.4
# cd cloud_manager_standard-2.0.4
# ./cloud_install_JP.sh
```

途中、パスワードの入力を促されます。デフォルト値の「hinemos」を入力します。

続いて2つ目のインストーラを起動します。

```
# cd ../azure_option_manager_standard-2.0.4/
# ./azure_option_install_JP.sh
```

途中、パスワードの入力を促されます。デフォルト値の「hinemos」を入力します。

8. Hinemosマネージャを起動します。

```
# /opt/hinemos/bin/pg_stop.sh
# service hinemos_manager start
```

以上で、Hinemosマネージャとクラウド管理オプションのセットアップが完了しました。

3.2 サブスクリプションへの証明書のアップロード

サブスクリプション内のアイテムにAPIよりリモートからアクセスする場合には、事前に証明書をアップロードする必要があります。

この証明書を作成するスクリプトmakeazurekey.shを、クラウド管理オプション for Azureに同梱しています。

1. 証明書を作成します。

makeazurekey.shを実行して、証明書を作成します。キーを「hinemos」として証明書を作成します。詳細は、makeazurekey.shのヘルプを参照してください。

```
# cd /tmp/CloudManagerStandardAzure_v2.0.4
# cd azure_option_manager_standard-2.0.4/scripts/
# ./makeazurekey.sh hinemos

hinemos.pfx hinemos.cer hinemos.b64 ファイルを作成しました

hinemos.cer をAzureポータルにアップロードしてください

Base64データをHinemosクライアントのシークレットキーに入力してください
次の行からBase64のデータを表示します。Enterを押してください：

（省略）

終了しました
HinemosとAzureポータルに設定後、ファイルを削除してください
削除するファイル hinemos.pfx hinemos.cer hinemos.b64
```

実行後に、コマンドを実行したディレクトリに次の3つのファイルが作成されます。hinemos.cerが、次の手順にてMicrosoft Azureポータルからアップロードするファイルになります。

- hinemos.b64 …Hinemosのアカウントリソース登録時のシークレットキー
- hinemos.cer …Microsoft Azureポータルからアップロードするファイル
- hinemos.pfx

2. 証明書をアップロードします。

先程作成したhinemos.cerをMicrosoft Azureポータルを使用する端末へ WinSCPなどを利用して取得します。

Microsoft Azureポータルにログインし、左側のメニュー「設定」を選択します。

右側の画面に表示される「管理証明書」をクリックし、証明書をアップロードするサブスクリプションIDを1つ選択します。そして、画面下の「アップロード」をクリックします。（このサブスクリプションIDがアカウントリソース登録時のアクセスキーになります。）

表示される「証明書のアップロード」画面から、先ほど用意したhinemos.cerを指定して右下のチェックボタンをクリックします。管理証明書一覧に「hinemos」が表示されていることを確認します。

これで、サブスクリプション内のアイテムにAPIより リモートからアクセスする準備ができました。

3.3 クライアントのセットアップ

Hinemosクライアントをローカル（手元）のWindows環境に準備します。

1. Hinemosクライアントをインストールします。

Hinemosクライアントを、手元のWindows環境にインストールします。インストール方法については、Hinemosインストールマニュアルを参照ください。

『Hinemos ver4.1 インストールマニュアル 第1.0版 7.1 Hinemosクライアントのインストール、7.2 Hinemosクライアントの起動』

2. クラウド管理オプションのクライアントライブラリをインストールします。

クラウド管理オプションのクライアントライブラリのZIPファイル（CloudClientStandardAzure_v2.0.x.zip）を展開し、Installer_JP.bat または Installer_EN.bat をダブルクリックします。クラウド機能拡張のダイアログが表示されるので、インストール対象となる Hinemosのバージョンを入力し、OKボタンをクリックします。

3. 必要に応じてProxyの設定を行います。

Proxyを経由したアクセスが必要な環境の場合、HinemosクライアントからProxyを使用してHinemosマネージャへ接続するように設定する必要があります。

Proxyの設定方法については、管理者ガイドを参照してください。

『Hinemos ver4.1 管理者ガイド 第1.0版 11.1.1 HinemosクライアントからHinemosマネージャへの接続』

3.4 HinemosマネージャへのAzureのサブスクリプション情報の登録

HinemosマネージャからMicrosoft Azureのサービスを利用するため、

HinemosマネージャにMicrosoft Azureのサブスクリプション情報を登録します。（Microsoftアカウントではないことに注意してください）

1. サブスクリプションID、証明書(hinemos.b64)を入手します。

クラウド管理オプションのアカウントリソースとしてサブスクリプションを登録する際に入力するキーは、アクセスキーとシークレットキーです。Microsoft Azureでは、「サブスクリプションへの証明書のアップロード」にて作成した証明書(hinemos.b64)のテキストがシークレットキーに、証明書(hinemos.cer)をアップロードしたサブスクリプションIDがアクセスキーになります。

2. HinemosクライアントからMicrosoft Azure上に構築したHinemosマネージャにログインします

ローカル（手元の）マシンで、Hinemosクライアントを起動します。接続[ログイン] ダイアログで以下の内容を入力します。

- ユーザID
hinemos を入力します。
- パスワード
hinemos を入力します。
- 接続先URL
<http://xxx.xxx.xxx.xxx:yyyy/HinemosWS/> を入力します。

xxx.xxx.xxx.xxx は、

クラウドサービスhinemosに割り当てられたパブリックIPアドレスです。仮想マシンmanager01のダッシュボードの「パブリック仮想IP(VIP)アドレス」から確認できます。yyyyは、仮想マシンmanager01のプライベートポート8080に対応するクラウドサービスhinemosのパブリックポートです。仮想マシンmanager01のエンドポイント一覧から確認できます。

例) <http://23.102.xx.33:62975/HinemosWS/>

3. クラウドパースペクティブを開きます

メニューから「パースペクティブ」→「パースペクティブ表示」を選択して「パースペクティブを開く」ダイアログを開きます。

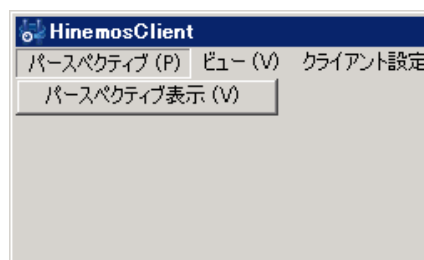


図 3-1 メニューから選択

「クラウド」を選択し、OKを押下します。

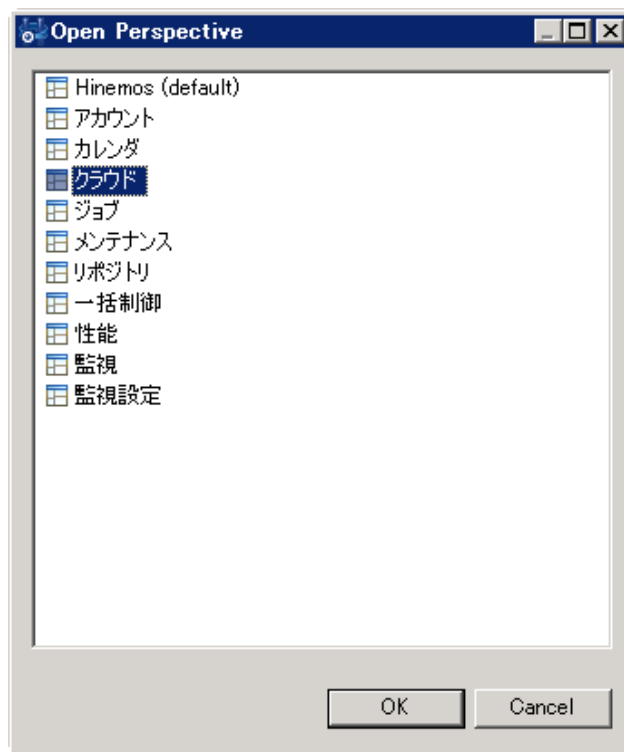


図 3-2 パースペクティブを開く ダイアログ

クラウド管理オプションの各機能にアクセスするための、「クラウド」パースペクティブが表示されます。

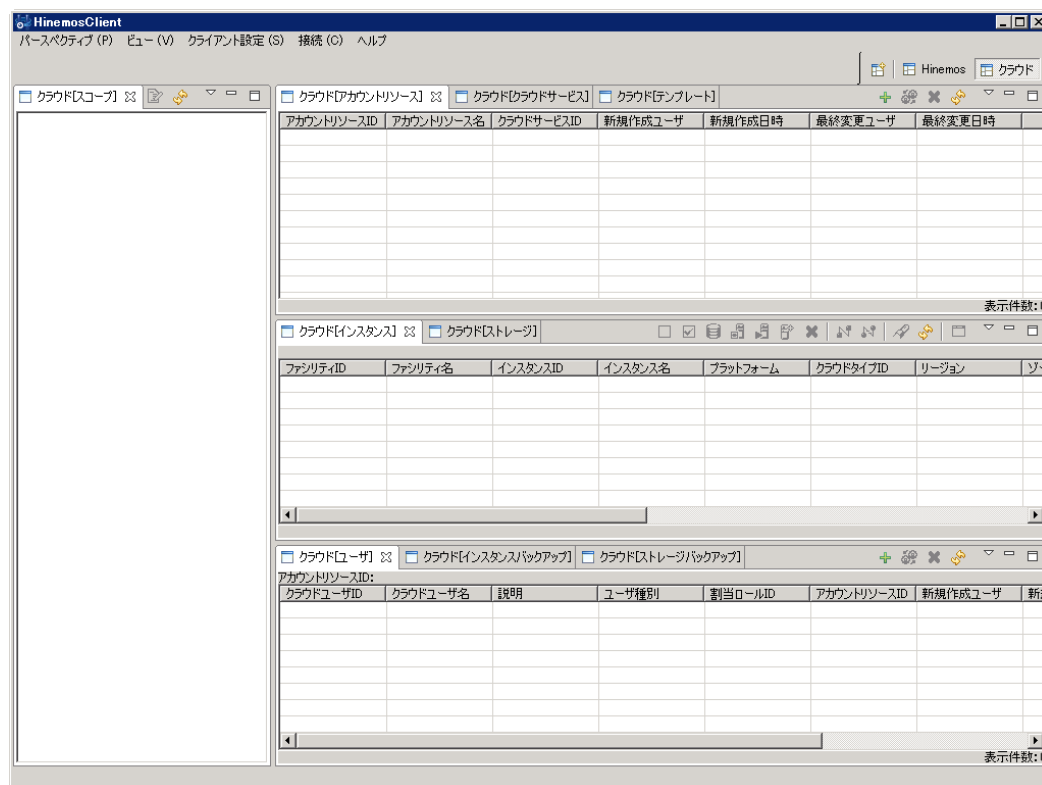


図 3-3 クラウドパースペクティブ

4. アカウント登録画面を開きます

クラウド[アカウントリソース] ビューの、「登録」をクリックします。

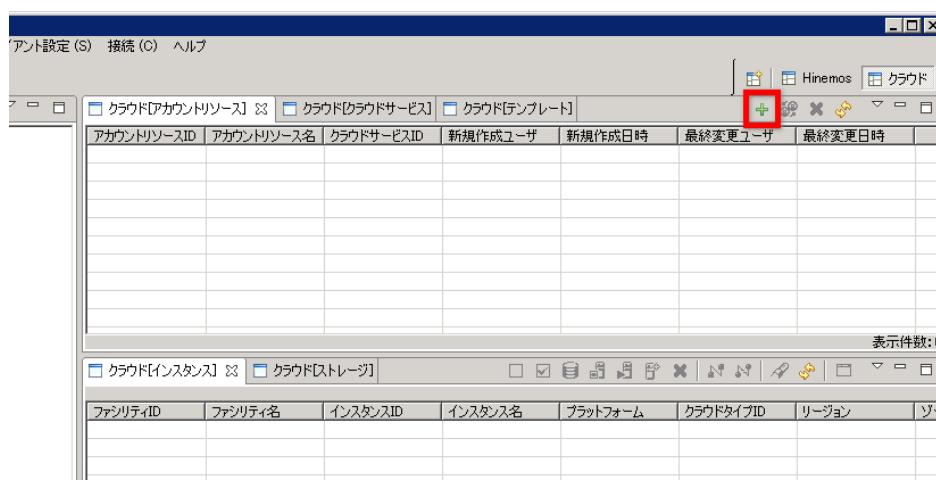


図 3-4 クラウド[アカウントリソース]の「登録」ボタン

5. クラウド[アカウントリソース登録・変更]ダイアログで、アカウントを登録します。(※)

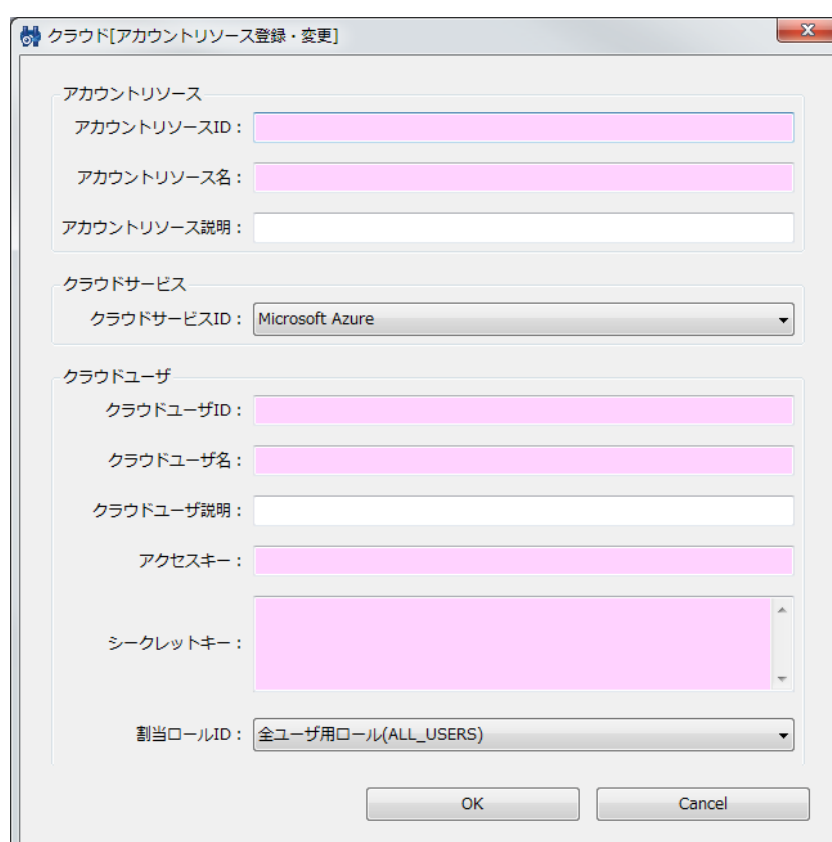


図 3-5 クラウド[アカウント登録・変更] ダイアログ

クラウド[アカウント登録・変更] ダイアログでは以下の内容を入力します。

- アカウントリソースID
Hinemosが管理するクラウドアカウントのIDを入力します。
これはMicrosoft AzureのアカウントIDとは無関係です。 任意の名前を設定可能です。 ここでは「AR01」とします
- アカウントリソース名
「AR01」とします。
- クラウドサービスID
「Microsoft Azure」を選択します。
- クラウドユーザID
Hinemosが管理するクラウドユーザのIDを指定します。 これは、Microsoft Azure上のユーザIDとは無関係です。 任意の名前を設定可能です。 「CU01」とします。
- クラウドユーザ名
「CU01」とします。
- アクセスキー
証明書をアップロードした「サブスクリプションID」を入力します。
- シークレットキー
作成した証明書(hinemos.b64)のテキストを入力します。
- 割当ロールID
作成したユーザ (CU01) をどのHinemosロールに割り当てるかを指定します。 ここでは「ADMINISTRATORS」を選択します。 その他の項目はデフォルト値のまま、「OK」をクリックします。 さらに確認画面が表示されるので、「OK」をクリックします

その他の項目はデフォルト値のまま、「OK」をクリックします。 さらに確認画面が表示されるので、「OK」をクリックします。

以上で、HinemosからMicrosoft Azureを操作・監視する準備が整いました。

(※) 本書で作成する環境においては、 アカウント登録の際に入力したアクセスキーID・シークレットアクセスキーは、 HinemosクライアントからHinemosマネージャに対し、 ネットワーク上を平文で送信されます。 セキュリティを確保するためには、 クライアント・マネージャ間の通信をHTTPSやVPN、SSHのトンネリング等を使用し、 暗号化することが推奨されます。 Hinemosマネージャ・クライアント間の通信のHTTPS化については、 管理者ガイドを参照してください。

4 Hinemosからクラウドの状態を見る

クラウド管理オプションを導入したHinemosマネージャは、 常にクラウドの状態を監視し、その内容をHinemosの管理対象として反映します。(※)

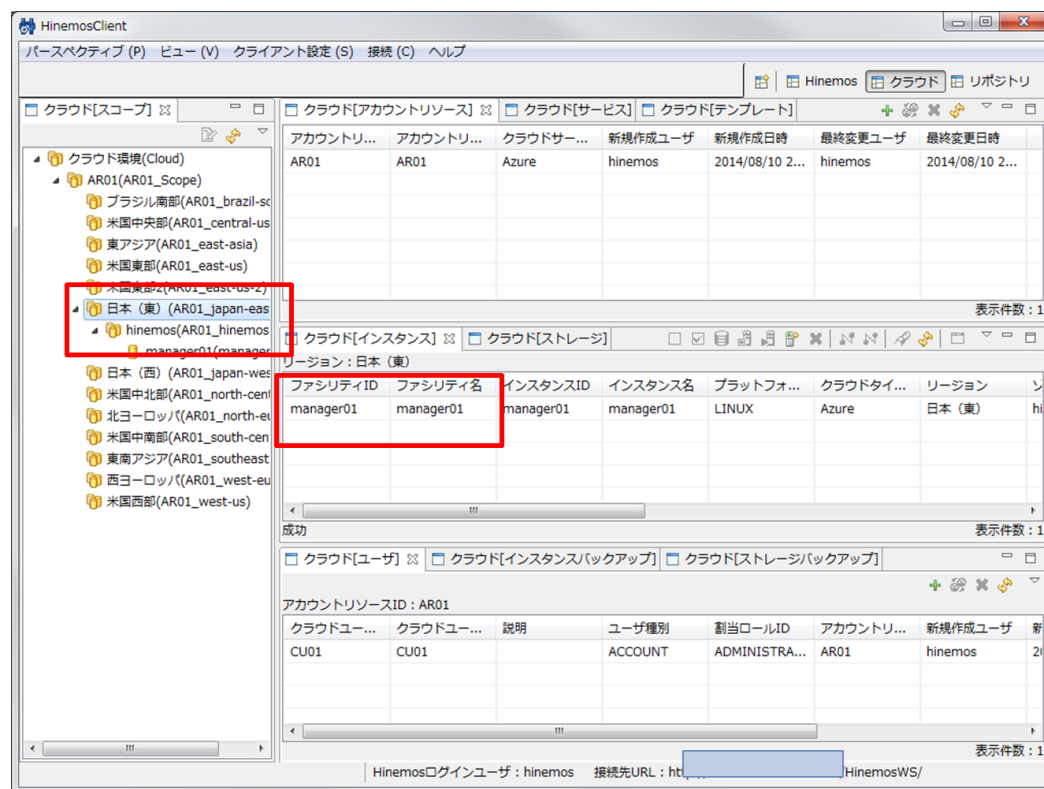
1. クラウドパースペクティブで状態を確認します。

クラウドパースペクティブを開き、 クラウド[スコープ]ビューで、Hinemosマネージャを作成したリージョンを選択します。

リージョンを選択すると、クラウド[インスタンス]ビューには、

そのリージョンに存在するインスタンスの状態が表示されます。

今回、Hinemosマネージャの仮想マシンを 日本(東)リージョンのクラウドサービスhinemosに作成してのので、クラウド[スコープ]ビューの「日本(東)」をクリックすると、クラウド[インスタンス]ビューに仮想マシンmanager01が表示されます。



2. Microsoft Azureポータルから仮想マシンagent01を作成します。

Microsoft Azureポータルから、『日本(東)リージョンのクラウドサービスhinemos』上に、Hinemosエージェント用の仮想マシンとして、Oracle Linux 6.4の仮想マシンを作成します。作成後しばらく経つと、クラウド[インスタンス]ビューには、作成したインスタンスが表示されます。

3. リポジトリパースペクティブでHinemosの管理対象として登録されていることを確認します。

リポジトリパースペクティブを開きます。

リポジトリ[ノード]ビューには、Microsoft Azure上に存在しているHinemosマネージャ自身(manager01)や、Microsoft Azureポータルから作成した仮想マシン(agent01)などが登録されています。

リポジトリ[ノード]ビューには、manager01やagent01のクラウドサービスhinemos上の内部IPアドレスが登録されていることを確認できます。

また、リポジトリ[スコープ]ビューには登録したアカウントの範囲が存在し、その中にリージョン別に範囲が定義されています。範囲の構造は下記のようになります。

- クラウド環境(Cloud)
 - Azureサブスクリプション1スコープ
 - 日本(東)リージョンスコープ
 - クラウドサービススコープ1
 - クラウドサービススコープ2
 - Azureサブスクリプション2スコープ
 - 日本(東)リージョンスコープ
 - クラウドサービススコープ1
 - クラウドサービススコープ2
 - ...

(※) 設定により、自動的に監視・反映をするか否かを変更可能です。詳細はマニュアルを参照してください。

5 Hinemosからのクラウド操作

クラウド管理オプションを導入したHinemosからは、クラウド環境を操作することができます。ここでは、基本的なインスタンスの操作を実施します。クラウド[インスタンス]ビュー上のツールバーを利用して、Hinemosからクラウド上のインスタンスを操作することができます。

先ほど自動で検知した仮想マシン(agent01)を選択して、停止ボタンをクリックしてください。仮想マシン(agent01)がシャットダウンされることが Microsoft Azureポータルから確認できます。

6 Hinemosマネージャを居室環境にセットアップする場合

Hinemosクラウド管理オプションをインストールすると、HinemosマネージャからMicrosoft AzureのAPIを直接コールするため、Hinemosマネージャがインターネット接続環境にある必要があります。

Hinemosマネージャのサーバがインターネットを出る前にHTTPプロキシがある場合には、以下のプロパティを/opt/Hinemos/etc/hinemos.propertiesに追加することで、HTTPプロキシを経由して、Microsoft Azureにアクセスすることが可能になります。

```
## Azure
```

```
hinemos.cloud.azure.client.config.proxyHost=HTTPプロキシのホストIPアドレス
```

```
hinemos.cloud.azure.client.config.proxyPort= HTTPプロキシのポート番号
```

```
hinemos.cloud.azure.client.config.proxyUsername= HTTPプロキシの認証ユーザ
```

```
hinemos.cloud.azure.client.config.proxyPassword= HTTPプロキシの認証パスワード
```

本設定の反映には、Hinemosマネージャの再起動が必要です。

ただし、Hinemosクラウド管理オプションがデフォルトで自動検知する仮想マシンのIPアドレスは、クラウドサービス内の内部 IP アドレスであることに注意してください。

7 変更履歴

変更履歴

版	変更日	変更内容
第1版	2014/10/6	初版発行

Hinemos クラウド管理オプション ver2.0 Standard for Azure クイックスタートガイド

非売品

- 禁無断複製
- 禁無断転載
- 禁無断再配布

Hinemosは（株）NTTデータの登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

なお、本文中にはTM、Rマークは表記しておりません。